

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2 年 3 月 10 日

事業所名 帯広あおぞら

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0		国の定めた設置基準の部屋数になっています。
	②	職員の配置数は適切である	12	0		基準以上の職員数を配置しています。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	11	1	一部バリアフリーではないが、子ども達が生活しやすいように工夫していきます。	今後も職員で話して改善していきます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間と	12	0		今後も継続して行っています。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12	0		今後も継続して行っています。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0		昨年度より保護者からの評価を実施しています。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所のおたよりやホームページ等で公開している	12	0		引き続き自己評価を行っていきます。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	12	外部の有識者等に意見を聞いています。	外部評価の方法を検討していきます。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0		今後も継続して行っています。
適切な支	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を	12	0		今後も継続して行っています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	3	簡易的なものを使用しています。	あおぞらの子ども達に合ったツールを検討中です。
	⑫	個別支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	0		今後も継続して行っています。
	⑬	個別支援計画に沿った支援が行われている	12	0		今後も継続して行っています。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0		今後も継続して行っています。

援 の 提 供	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0		今後も継続して行っています。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて個別支援計画を作成している	12	0		今後も継続して行っています。
	⑰	支援開始前には、その日行われる支援の内容や役割分担について、職員間で確認している	12	0		今後も継続して行っています。
	⑱	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を職員間で共有している	11	0		※未記入1 今後も継続して行っています。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0		今後も継続して行っています。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	12	0		今後も継続して行っています。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画	12	0		今後も継続して行っています。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	0		今後も継続して行っています。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	12	0		今後も継続して行っています。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	7	保護者を通して連絡を取り合っています。	対象児を担当しているかどうかで、回答が分かれていると思われます。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	11	1		今後も継続して行っています。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0		今後も継続して行っています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	1		※未記入1 今後も継続して行っています。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	12	0		今後も継続して行っています。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	0		今後も継続して行っています。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0		今後も継続して行っています。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)を行っている	0	12		家族支援は行っていますが、トレーニングプログラムは行っていないので、今後検討していきます。

保護者への説明責任等	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③⑦	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	12	0		今後も継続して行っていきます。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0		今後も継続して行っていきます。
④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	12	0		今後も継続して行っていきます。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	7		マニュアルはありますが、周知が不十分なのでこのような結果になったと思われる。周知方法を検討していきます。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	0		今後も継続して行っていきます。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0		今後も継続して行っていきます。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0		今後も継続して行っていきます。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	7	5		身体拘束をする必要がある対象児がない為、記載する必要が無く、「いいえ」という回答になったと思われる。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所で子どもの担当者が行った自己評価です。

- * 令和1年度の事業所評価と保護者評価の結果を振り返り、職員としては「やっている」と思っているにもかかわらず、保護者の思いに届いていないところが多々あるということを受け止め、保護者に伝わるような丁寧な伝え方を工夫すると共に、子どもの成長発達と一緒に支えていけるように保護者と話し合いながら進めていきたいと思えます。

- ★ 事業所評価を回答した職員から、項目ごとに「はい」「いいえ」のどちらかでは、「いいえ」と回答するとまったくやっていないということではないので、「はい」につけた方がつけ方が良いのか、つけ方が難しいので「どちらともいえない」という選択肢を加えていったほうが良いという意見が出され、次年度から加えることとします。

